

かたの瓦版

この時、交野は動いた

=元号でたどる交野③=

げんき  
元亀

(1570-1573年) 正親町天皇

◇元号をめぐる信長と将軍の確執

★元亀元(1570年)織田信長の石山攻めに無量光寺三世覚心はその門徒衆をひきいて参戦し天王寺勝曼堂付近で激戦する(『無量光寺四百五十年史』)。

★倉治善通寺澄心、加地甚兵衛秀行等はその一党とともに石山城の防禦戦に加わる(善通寺記録)



★この頃すでに星田善林寺の前身となる草庵ができている(善林寺過去帳より推定)

◇元亀2(1571年)織田信長が延暦寺を焼き討ち

★元亀3(1572年)織田信長機物神社社前に村が戦乱で荒らされないようにと数カ条の禁制札を立てた。(機物神社所蔵禁制札の写し)。

◇信長は義昭に意見書を出し「元亀の年号、不吉に候間、改元然るべしの由」と改元を迫っている。

◇元亀4(1573年)両者の対立は深まりつづけ、ついに信長は義昭を京都から追放。これにより、実質的に室町幕府は滅亡した。

てんしょう  
天正

(1573-1593年) 正親町天皇・後陽成天皇

◇将軍追放後にすぐに改元にとりかかった。

★天正元(1573年)摂津伊丹の城主伊丹親興は足利義昭に従って宇治槇島城に拠ったが、織田信長これを陥れ、親興は摂津芥川城にのがれ、そこで討死する。この時伊丹の残党は織田方の搜索をのがれて傍示山に入り、そこに定住する。



家紋瓦



傍示の里

★天正年間僧西念は真言宗清水寺→須弥寺と改め念仏宗とす。

★天正年中私部住人惣善によって、想善寺のものができる。

★星田村の僧貞阿は念仏宗光林寺のもとを開き星の道場と称す。



★天正2(1574年)この頃倉治光明院のはじめ、念仏道場として出来る(同寺過去帳より推定)

★私部城主安見直政は無量光寺三世覚心を捕らえて殺そうとしたが、覚心のがれ去ったので、その寺を焼く(『無量光寺四百五十年史』)

★安見直政私部城で病死す(安見家系譜)

★大和の筒井勢私部城に押し寄せ、防戦なく開城する。この時北田好忠敵前にその武芸を示して死す(北田家系譜)

★天正3(1575)四月織田信長は交野山岩倉開元寺を焼く(『織田軍記』及当山出土品より推定)。

織田信長軍私部城をこぼつ(『織田軍記』)

★天正10(1582)明智光秀機物神社へ初穂料奉納(機物神社所蔵文書写)

★羽柴秀吉機物神社に制禁札を立つ(機物神社所蔵文書写)

★天正12(1584年)二月豊臣秀吉は交野郡星田庄内120石の地を石清水八幡宮御供料として寄付する(「石清水文書」)

★二月羽柴秀吉は交野郡寺村の二十八石三斗四升を石清水八幡宮御供米として寄付し、朱印状を八幡善法寺へ寄せる(「石清水文書」)

★天正 16(1588)四月十六日後陽成天皇は聚楽第行幸につき、豊臣秀吉その日の晴天ならんことを機物神社に祈願し、当日晴天だったので以後毎年当社へ米百俵ずつ奉納の覚書を与う(機物神社所蔵記録)

**文禄(1593-1596)後陽成天皇**

◇海外に向けられた豊臣秀吉の野心

★無量光寺三世覚心は、安見直政の迫害により各地流浪の末、寝屋道場から寺村に帰る(『無量光寺四百五十年史』)

★文禄 3(1594)無量光寺覚心寺村に草庵を結ぶ、これ正行寺のはじめ。

★想善寺に六字名号碑(文禄三年銘)建つ(同寺現存)

★河内の検地を終わった後、豊臣秀吉は検地石高より石清水八幡宮御供料として、星田村120石余、寺村28石余、渚村3石余寄付の朱印状を八幡宮善法寺に交付す(石清水文書)

★文禄5・慶長元年(1596年7月13日)慶長伏見大地震(青山で噴砂跡発見)



青山噴砂発見現場



噴砂跡

**知恵袋**

=いつ起こるかもしれない大地震について=日本の地震には、主に二つのタイプがあります。

①「地殻内地震」⇒大陸プレートのなかで起き、

局地的に激しい揺れを伴う。

代表的なもの阪神、淡路大震災・新潟県中越地震・熊本地震

②「プレート境界地震」⇒大陸プレートと海洋プレートの境界で起き、津波災害も引き起こす。代表的なもの東日本大震災が挙げられる。無理なく、日頃から備えておきましょう。

慶長(1596-1615)後陽成天皇・後水尾天皇

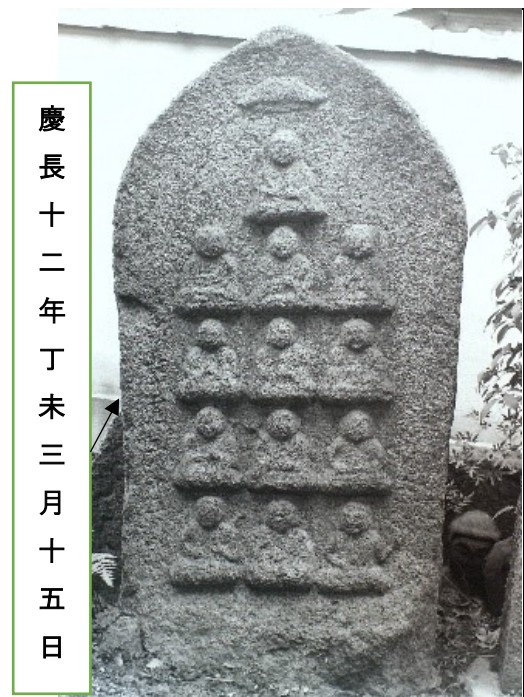
◇徳川家康が江戸幕府を開く

★慶長9(1604)私部光通寺はすでに以前から毎年正月天皇に茶を奉った。その伝奉披露状女房奉書この年の分の写しが残っている(光通寺伝奉披露状女房奉書の写しによる)。



光通寺

★慶長12(1607)星田慈光寺境内に一石十三仏(慶長十二年銘)建立(現存)



慶長十二年丁未三月十五日

左から文殊（三七日）・釈迦（二七日）・不動（初七日）

右普賢（四七日）・地蔵（五七日）・弥勒（六七日）

左勢至（一年）・観音（百か日）・薬師（七七日）

右阿弥陀（三年）・阿闍（七年）・大日（十三年）

最上段虚空蔵（三十三年）

天蓋

### 知恵袋

十三仏とは日本の仏教では、亡くなった人は、葬儀によって仏弟子となり、十三の仏さまを巡って仏徳を授かり、その福德を遺族・子孫に授けながら成仏していくとされます。遺族は、亡くなった人のために仏さまに供養するのに、特に功德があるとされる日を「忌日（きじつ）」として、追善供養の法要（法事）を営んだり墓参をしたりしてきました。

その忌日は、初七日忌から二七日（ふたなのか）忌・三七日（みなのか）忌・四七日（よなのか）忌・五七日（三十五）忌・六七日（むなのか）忌・七七日（四十九日）忌・百か日忌・一周忌・三回忌・七回忌・十三回忌・三十三回忌までの十三あり、忌日のご本尊さまとしてお導きをいただく十三の仏さまが配当され、総称して「十三仏」とお呼びします。

現在でも、お葬式が終わってから、隣組の人たちが十三仏の名号や御詠歌を唱えて故人の冥福を祈る、「念仏」とも「百万遍」ともいわれるしきたりが残っています。故人を独りぼっちにしない、寂しい思いをさせないで、間違いなく密厳浄土に往ってほしいという温かい志が込められています。

この十三仏信仰の始まりは室町時代にまで溯り、宗派・地域を問わず大勢の人々に信仰され、今日に伝えられています。この信仰に基づく「ご法事（＝年回忌供養）」は、仏さまと精霊（＝亡き人）と私たちとの三者が一体となる聖なる場であり、お焼香や花・供物などの供養が精霊の成仏のためになるだけでなく、同時に参列した遺族・親族・知人などが、善行の功德を積んで自己の幸せと死後の安楽のためになるもの、と信じられてきています。十三仏の仏さまとその功德は次の通りです。

・初七日忌 - 不動明王

功德-煩惱を焼き尽くし、迷いを断ち切り、信心を定めて強い力で導いてくれます。

・二七日忌 - 釈迦如来

功德-説法によって煩惱や邪見（誤った信仰や考え方）を破り、正しい信仰に導いてくれます。

・三七日忌 - 文殊菩薩

功德-分けへだてする愚かさを断ち、物事を正しく判断する智慧を授けてくれます。

・四七日忌 - 普賢菩薩

功德-悟りを求める清らかな心、そして悟りをめざした実践行に導いてくれます。

・五七日忌 - 地蔵菩薩

功德-あらゆるものの苦しみをうけとめ、その苦しみに負けない力を授けてくれます。

・六七日忌 - 弥勒菩薩

功德-すべてのものに対する慈しみの心を授けてくれます。

・七七日忌 - 薬師如来

功德-心身の病苦を除き、苦しみや恐れを除いてくれます。

・百日忌 - 観音菩薩

功德-世の中を広く観察し、すべての苦しみを除く、深い思いやりの心を授けてくれます。

・一周忌 - 勢至菩薩

功德-我欲、執着を滅し、とらわれを除く心を授けてくれます。

・三回忌 - 阿弥陀如来

功德-生死を離れた、安らかなる心を授けてくれます。

・七回忌 - 阿闍如来

功德-何ごとにも揺らがない心と、怒りを離れた安らかなる心を授けてくれます。

・十三回忌 - 大日如来

功德-生命の尊さを知らしめ、生まれながらにそなえている自身の清らかな心に気づかせてくれます。

・三十三回忌 - 虚空蔵菩薩

功德-福德と智慧を授け、生命の根源に気づかせてくれます。

なお、年回法要は上の他に十七回忌、二十三回忌、二十七回忌、三十七回忌、四十三回忌、四十七回忌、五十回忌、百回忌と営まれ、それぞれ大日如来がお導き下さる仏さまと定められています。

（参考資料）交野市史・交野町史復刻編